



# STOP! the やんばハッ場ダムニュース

IN 埼玉

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

No. 51

2020年3月15日



巻頭言

## 安倍内閣がにわかにくらつき始めた

憲政史上最長になった長期政権ではあるが、  
その政策の多くは未達または失敗である。即ち、

1. 国の安全体制：危険な賭。戦後長年にわたって自民党政権が堅持してきた「専守防衛」を、法制局長官を交代させ、国会の議論を省略した「閣議決定」で憲法解釈を変え、自衛隊が海外で米軍の戦闘を支援できる「集団安全保障」体制を作り上げてしまった。

2. アベノミックスの失敗：「デフレ脱却」2%の物価上昇を目指して、財務省出身の黒田氏を日銀総裁に据え、巨額の国債を発行したが、デフレ脱却は大幅未達。官と民のなれ合いで赤字垂れ流しの官民ファンドも目に余る。一方、所得格差は拡大し大企業と超富裕層は潤っているが、逆進性の消費税もあり一般国民の生活は厳しい。

3. エネルギー政策：依然として、①原発再稼働/新增設推進を目指しており、エネルギー基本計画の2030年時点での原発比率20~22%を変えていない。この比率を実現するためには、再稼働だけでなく新增設が必要になる。(2020年1月現在の原発比率は約5%だが生活に支障はない)。②石炭火力発電：全世界が「脱石油」を本気で進めているのに、2011年以降認可した石炭火力発電所は50基に上り、一部は計画を中止したが30基以上は既に完成/建設中である。マドリッドで開かれたCOP25で、日本は「化石賞」という屈辱的な賞を授与された。③自然エネルギーについては、太陽光発電の事業用FIT(買取価格)を大幅に下げ13円/kWhになり、採算困難に。且つ2009年に始まった家庭用FIT(買取価格)制度も2019年で10年を迎えるので、一時爆発的に増えた太陽光発電もこれから減少する可能性あり。風力や地熱発電も政府として推進する意欲は見られない。④電力自由化はしたが、大手電力会社は自治体への電力供給を、従来の膨大な蓄積を使って新電力から取り戻してしまった。

4. その他、新電力の「託送料」に原発コストを入れ、「容量市場」では原発・石炭火力を優遇。

5. 外交でも失政続き：お得意と言われる外交でも失政が続く。①トランプ大統領とは、表面的に仲良くなったように見えるが、肝心のFTAは「ウィン・ウィン」の関係どころか、自動車の対米輸出関税は「継続交渉」。アメリカでは「ゼロ関税はあり得ない」。アメリカ兵器の爆買い・沖縄辺野古は、「軟弱地盤」のために予想の3倍のコストがかかっても、沖縄県民の反対も無視して強行建設が続く。②ロシアとの領土交渉も、プーチン大統領/パブロフ外相が「4島は戦争の結果ロシアが手に入れたもの：北方領土などと云うな」と釘を刺された。③中国の習近平主席をこの春「国賓」として招待するそうである。中国と仲良くすることは悪いことではないが、中国共産党の怖い体質(香港・台湾・チベット・ウイグル・モンゴルや国内批判勢力への人権無視の弾圧)を無視して国賓として呼ぶ価値があるのか。

6. 公共事業も無駄が多い：①リニア新幹線：南アルプスを地下で横切るリニア新幹線は各地で環境破壊がすさまじい。静岡県は大井川の水が減ると反対しているし、超々高速ですれ違う実験せず/廃土受け入れ拒否/複数の反対訴訟：もともとJR東海は「採算は取れない」と公表しているのに、8兆円とも13兆円とも言われる補助金をつけてもらって建設を始めたもので、「全く無用の長物」ではないか。②各地の無駄なダム：人口減と省エネ機器で水需要は激減しているのに無駄な予算をつけて環境破壊のダム事業。ここ数年来の台風大型化に対応できず水害が多発しているがその多くは人災である。などなどなど：枚挙にいとまない。

それにしても安倍政権への支持率が一時よりは減ったとはいえ未だに40%前後を維持している。野党各党が協力して有効な政策を提示すれば、政権交代はそこまで来ていると思われるのだが。

2020年1月18日 河登一郎

# 「台風19号でハツ場ダムが利根川を救った」は フェイクニュースです

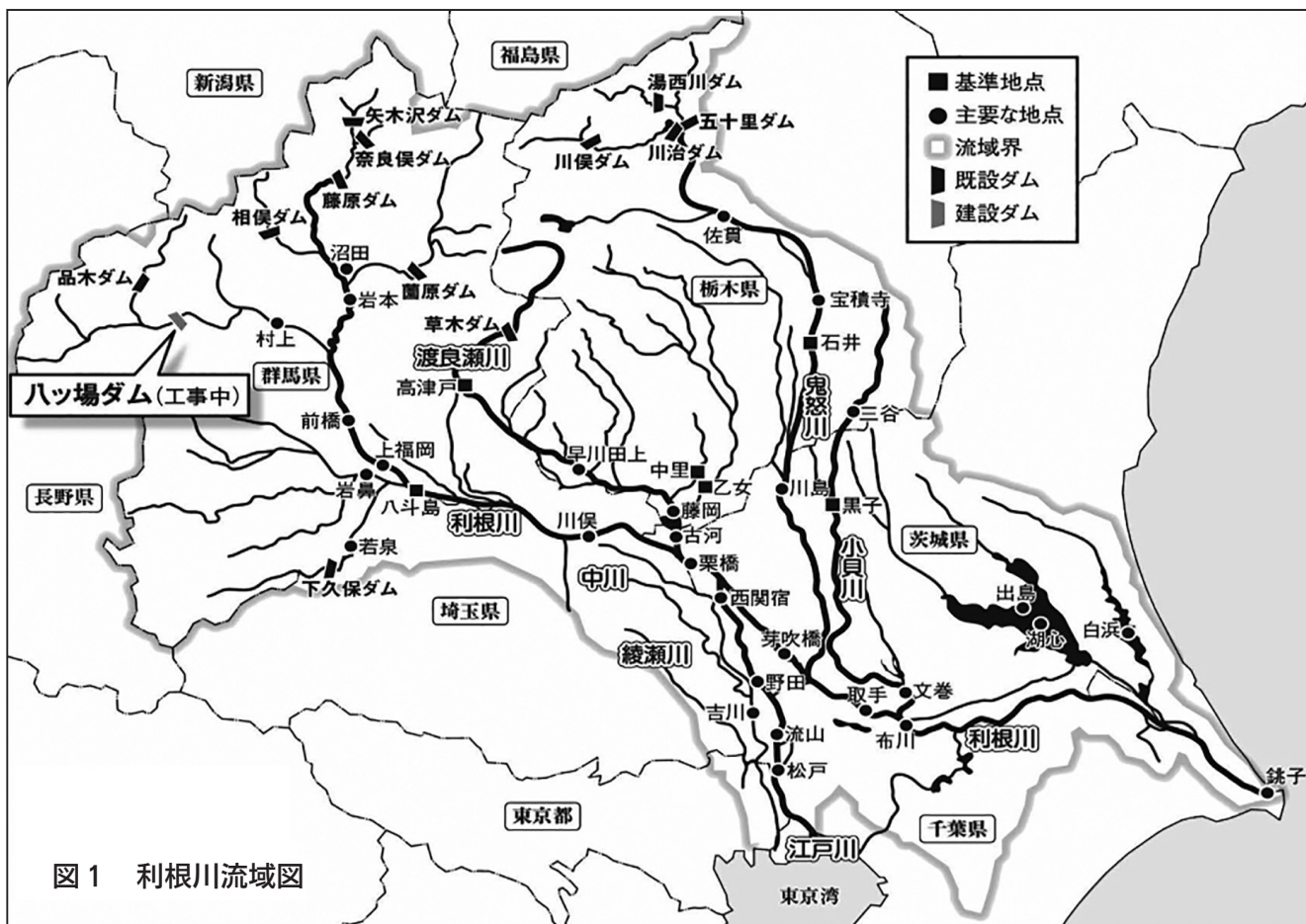
嶋津 暉之

## ハツ場ダムの洪水位低下効果は利根川中流部で17cm 程度

ハツ場ダムは、2019年10月1日から試験湛水が開始されたが、10月12～13日の台風19号により、貯水量が一挙に増加した。ハツ場ダムの貯水量が急増したことで、「台風19号では利根川の堤防が決壊寸前になった。決壊による大惨事を防いだのはハツ場ダムの洪水調節効果があったからだ」という話がネットで飛び交っている。

しかし、それは本当のことなのか。現時点で国交省が明らかにしているデータに基づいて検証することにする。

10月13日未明に避難勧告が出た埼玉県加須市付近の利根川中流部についてみる。本洪水で利根川中流部の水位は確かにかなり上昇したが、決壊寸前という危機的な状況ではなかった。加須市に近い利根川中流部・栗橋地点（久喜市）（利根川の各地点の位置は図1を参照）の本洪水の水



(「議会と自治体」2019年12月)

(国土交通省資料から)

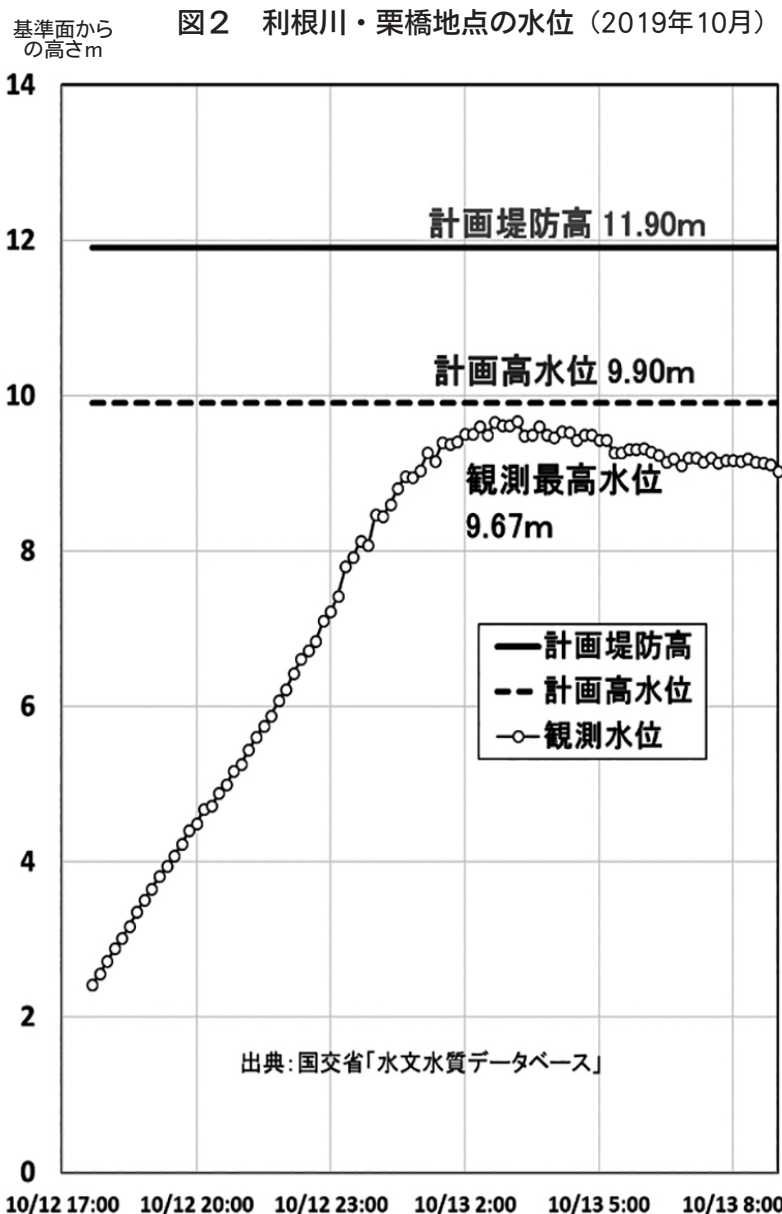
位変化を見ると、**図2**のとおり、最高水位は9.67m（観測所の基準面からの高さ）まで上昇し、計画高水位9.90mに近づいたが、利根川本川は堤防の余裕高が2mあって、堤防高は計画高水位より2m高いので、まだ十分な余裕があった。なお、栗橋地点の氾濫危険水位は8.9mで、計画高水位より1m低いが、これは避難に要する時間などを考慮した水位であり、実際の氾濫の危険度はその時の最高水位と堤防高との差で判断すべきである。

ハツ場ダムの治水効果については国土交通省が行った詳細な計算結果がある。それによれば、**図3**のとおり、栗橋に近い地点（江戸川上流端）での洪水最大流量の削減率は10洪水の平均で50年に1回から100年に1回の洪水規模では3%程度である。本洪水はこの程度の規模であったと考えられる。

本洪水では栗橋地点の最大流量はどれ位だったのか。栗橋地点の最近

8年間の水位流量データから水位流量関係式をつくり、それを使って今回の最高水位9.67mから今回の最大流量を推測すると、約11,700m<sup>3</sup>/秒となる。ハツ場ダムによる最大流量削減率を3%として、この流量を97%で割ると、12,060m<sup>3</sup>/秒になる。ハツ場ダムの効果がなければ、この程度の最大流量になっていたことになる。

この流量に対応する水位を上記の水位流量関係式から求めると、9.84mである。実績の9.67mより17cm高くなるが、さほど大きな数字ではない。ハツ場ダムがなくても堤防高と洪水最高水位の差は2m以上あったことになる。したがって、本洪水でハツ場ダムがなく、水位が上がったとしても、利根川中流部が氾濫する状況ではなかったのである。



## 河床の掘削で計画河道の維持に努める方がはるかに重要

利根川の水位が計画高水位の近くまで上昇した理由の一つとして、適宜実施すべき河床掘削作業が十分に行われず、そのために利根川中流部の河床が上昇してきているという問題がある。国土交通省が

定めている利根川河川整備計画では計画高水位 9.9 m に対応する河道目標流量は 14,000m<sup>3</sup>/秒であり、今回の洪水は、水位は計画高水位に近いが、流量は河道目標流量より約 2,300m<sup>3</sup>/秒も小さい。このことは、利根川上流から流れ込んでくる土砂によって中流部の河床が上昇して、流下能力が低下してきていることを意味する。河川整備計画に沿った河床面が維持されていれば、上述の水位流量関係式から計算すると、今回の洪水ピーク水位は 70cm 程度下がっていたと推測される。ハツ場ダムの小さな治水効果を期待するよりも、河床掘削を適宜行って河床面の維持に努めることの方がはるかに重要である。

### 本洪水における利根川の上流部と下流部の状況

以上、利根川中流部についてみたが、本洪水では利根川の上流部と下流部の状況はどうであったのか。図1のとおり、利根川は八斗島（群馬県伊勢崎市）

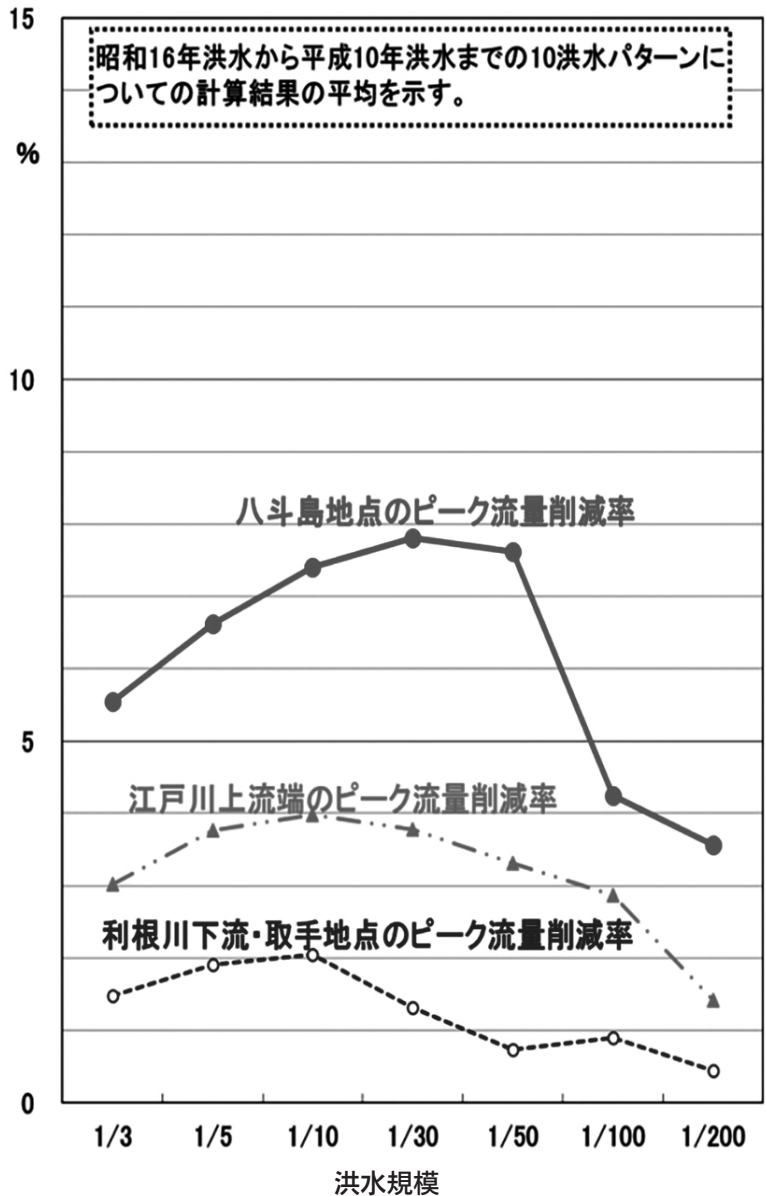
より上が上流部で、この付近で丘陵部から平野部が変わるが、八斗島地点の本洪水の水位変化を見ると、最高水位と堤防高の差が上述の栗橋地点より大きく、上流部は中流部より安全度が高く、氾濫の危険を心配する状況ではなかった。

一方、利根川下流部では10月13日午前10時頃から水位が徐々に上昇し、河口に位置する銚子市では、支流の水が利根川に流れ込めずに逆流し、付近の農地や住宅の周辺で浸水に見舞われるところがあった。ハツ場ダムと利根川下流部の水位との関係は中流部よりもっと希薄である。ハツ場ダムの洪水調節効果は下流に行くほど小さくなる。前述の国交省の計算では図3のとおり、下流部の取手地点（茨城県）でのハツ場ダムの洪水最大流量の削減率は1%程度であり、最下流の銚子ではもっと小さくなるから、今回、浸水したところはハツ場ダムがあろうがなかろうが、浸水を避けることができなかった。浸水は支川の堤防が低いことによるのではないだろうか。

なお、東京都は利根川中流から分岐した江戸川の下流にあるので、ハツ場ダムの治水効果はほとんど受けない場所に位置している。

図3 国土交通省の計算によるハツ場ダムの洪水ピーク流量減率

〔ハツ場ダム建設事業 費用便益比算定資料 関東地方整備局（2009年3月）〕



洪水は流下していく途中で、他の支川から洪水が流入し、河道で洪水が貯留されることにより、洪水波形は扁平となり、ピーク流量は減衰していく。これにより、ダムによる洪水ピーク削減効果は下流に行くにつれて次第に小さくなっていく。

2015年9月の豪雨により、利根川水系の鬼怒川下流で大きく氾濫し、甚大な被害が発生した。鬼怒川上流には国交省が建設した四つの大規模ダム、五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダムがあり、ルール通りの洪水調節が行われたが、図4のとおり、下流では4ダムによる洪水ピーク流量の削減効果は約1/10に減衰していたため、下流での氾濫の抑止には無力であった。

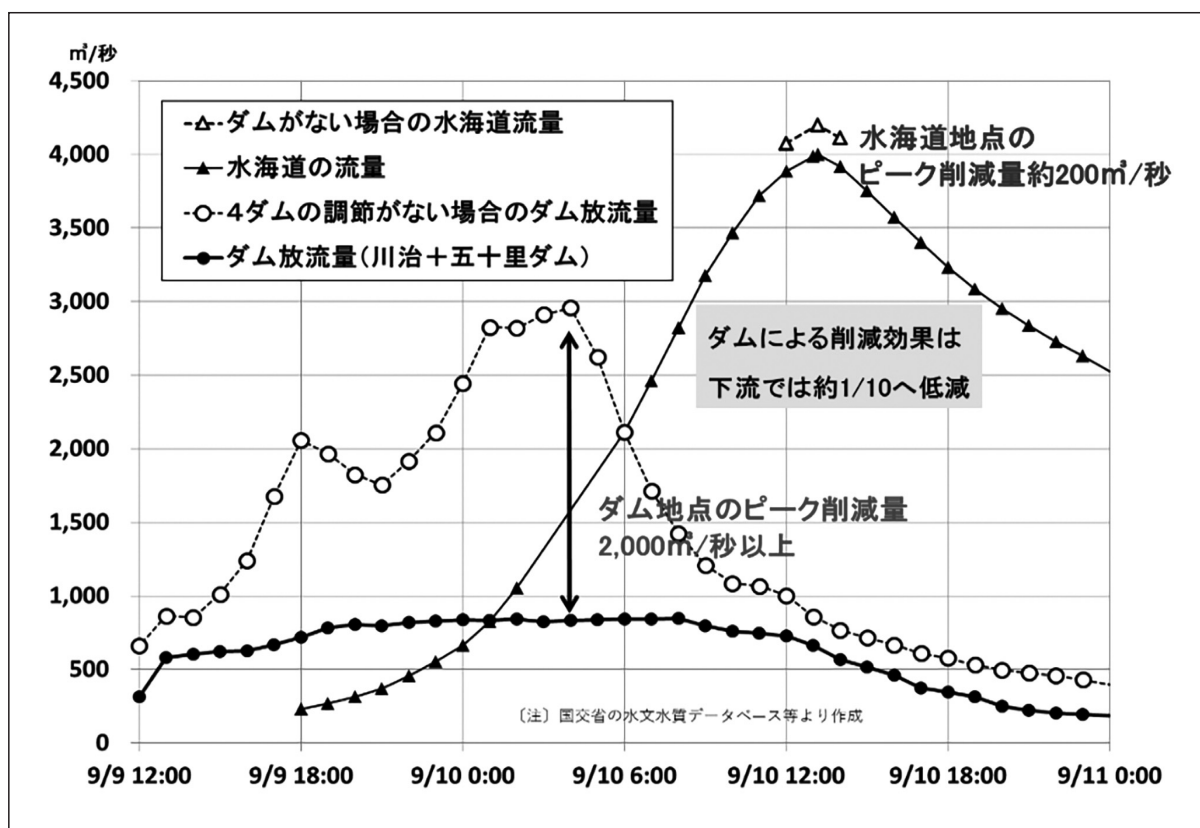
このようにダムの洪水調節効果は下流に行くほど減衰していくものであるから、ダムでは中下流域の住民の安全を守ることができないのである。

## ハツ場ダムの事業費を河道整備に使っていたなら 飛躍的に治水安全度向上

以上のとおり、本豪雨でハツ場ダムがあったので、利根川が助かったという話は事実を踏まえないフェイクニュースに過ぎないのである。

ハツ場ダムはダム建設事業費が5320億円で、水源地域対策特別措置法事業、水源地域対策基金事業を含めると、総事業費が約6500億円にもなる巨大事業である。もしハツ場ダムを造らず、この費用を使って利根川本川支川の河道整備を進めていれば、利根川流域全体の治水安全度は飛躍的に高まっていたに違いない。

図4 鬼怒川2015年のダム地点（距離標134km）と下流・水海道地点（11km）の流量



(注) 国交省の水文水質データベース等より作成

# 川と海岸を破壊するダム

(ハッ場ダム見学後の想い) 富永 靖徳

一昨年来、2度ハッ場ダムの見学に行きました。1度目は2018年6月6日(水)、本体工事が6割程度出来た頃、2度目は、2019年11月24日(日)、本体工事が終わり、湛水試験が始まった直後の台風21号の大雨の後でした。

1度目は、都内とその近郷の19名のグループに参加し、国交省のお仕着案内と「ハッ場あしたの会」の渡辺洋子さんの案内という、同じ日に視点の異なる案内だったので、ハッ場ダムの問題を、より多角的に見る事ができました。参加者は、両方の説明を聞き「ハッ場あしたの会」の説明に、改めて納得して帰りました。

2度目の見学は、「ハッ場あしたの会」の主催の見学会に参加しました。丁度、マスコミで、ハッ場ダムが台風19号の大雨から、利根川の水害を救ったという宣伝が行われている時期でした。これが、全くの的外れであることは、嶋津さん他の明快な説明があるので、詳細は割愛いたしますが、とにかく、ダムには大量の水が溜まっていた。国交省は、2020年の2~3月頃までに徐々に水量を増して、湛水試験をす

る予定だったようですが、一気に、ほぼ満水まで溜まってしまいました。もし、この時期に通常の稼働状態だったら、間違いなく「緊急放流」があった事は、誰の目にも明らかな状態でした。

ほぼ満水のダムの水は緑色で、これは、以前に見学した「品木ダム」の水とそっくり同じでした。第二品木ダムと言っても過言ではありません。これは、当初から予想されていましたが、まさに、その通りになったようです。これでは、とても湖面にボートを浮かべて、景色を楽しむ気にはなれません。国交省が宣伝している「湖水観光」にして人を呼べるかどうか、おおいに疑問の光景でした。

その後、ダム本体を間近で見学し、徐々に上流に向かいました。ここで、衝撃的な光景に出会いました。川の中に、もの凄い土砂が堆積しているのが目に入ってきました。**写真1**は吾妻川本流のダムの少し上流、**写真2**は近くの支流である白砂川との合流地点の状況です。本流の川幅が狭くなっているだけでなく、合流地点では、どれが支流でどれが本流か分からない程、川幅が狭くなっていました。



写真1 ダムサイトの少し上流



写真2 白砂川との合流地点

「川」は「水」を運ぶだけでなく土砂や砂利や石も一緒に運ぶものだという、当たり前な事をしっかりと目の当たりにしました。「川」は流れていてこそ本来の姿なので、これが、ひとたびどこかで滞ると、無残な姿になります。ダムが出来ると、流速が変わるために、砂利の移動の仕組みが変わります。その結果、ダム本体に土砂が溜まるだけでなく、ダムの上流には多くの土砂を残すようになります。上流からダムに流れ込んだ砂利は堆積し続けて次第にダムの堤体に押し寄せます。ダムが砂利で一杯になってくると砂利は堤体から流れ出るようになります。ただ、こうしてあふれ出す砂利は「質」が変わります。ダムの下流へは流れやすい小粒な砂利ばかりが流され、大きな石はダムで止まります。ダムの堤体には大きな石だけでなく、上流から流れてきた有機物が湖底に堆積し、攪拌が行われない貧酸素の状態分解することで、「ヘドロになってしまいます。

小粒な土砂のみになった下流では、流されにくい大きな石がごろごろと目立つようになります。これを専門家は「アーマーコート化（鎧化）」と表現します。こうして、下流にはほとんどの土砂が流れなくなり、水流が川底や土手を削ってしまいます。これが長く続くと、川岸は「砂山崩し」のように、あるところで河畔林もろともドサッと崩れることとなります。自然の川が破壊されていきます。

さらに下流の海岸では、本来来るべき土砂が来なくなるので、浜辺の土砂が減少し海岸線が削られることとなります。砂浜や干潟の土砂は堆積と浸食の微妙なバランスで成り立っているので、川からの土砂量の減少は海岸線に深刻な打撃を与えます。つまり、砂浜がなくなってしまう。この海岸線の浸食を防ぐため、結局はコンクリートのテトラポットだらけの海岸になってしまいます。なんとも情けない光景が到

る所に出現します。コンクリートは生態系を破壊するだけでなく、景観も破壊します。しかも、数十年後には、再生出来ないやっかいなゴミになります。

満水のハッ場ダムを見て、湖水の色にがっかりしたと同時に、川が運ぶのは水だけはないという事を実感しました。大熊先生が提唱されている「川」の定義：『川とは、山と海とを双方向につなぐ、地球における物質循環の重要な担い手であるとともに、人にとって身近な自然で、恵と災害という矛盾のなかに、ゆっくりと時間をかけて、人の「からだ」と「こころ」をつくり、地域文化をはぐくんできた存在である』を思い出しました。

ダムは「水の流れを阻害するだけでなく、「土砂、砂利、石の流れを阻害することによって、ダム本体の場所の環境を破壊するだけでなく、上流も下流もさらには海岸も含めて、地域の環境を取り返しのつかない程、破壊するという事を再認識した見学でした。いつか、ダムのない「自然の川が、日本全国に復活することを心から願っています。

### 〈ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会〉の これから

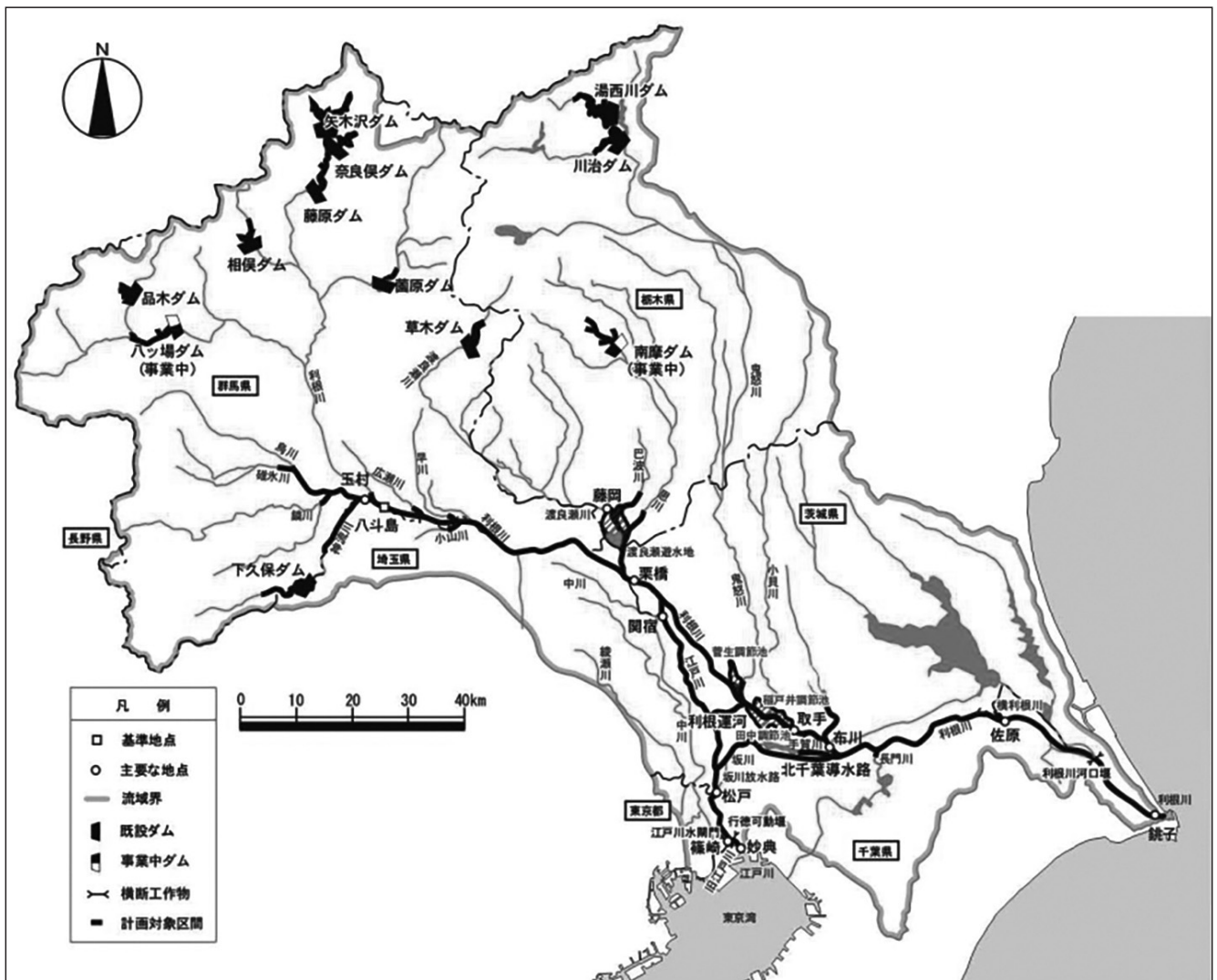
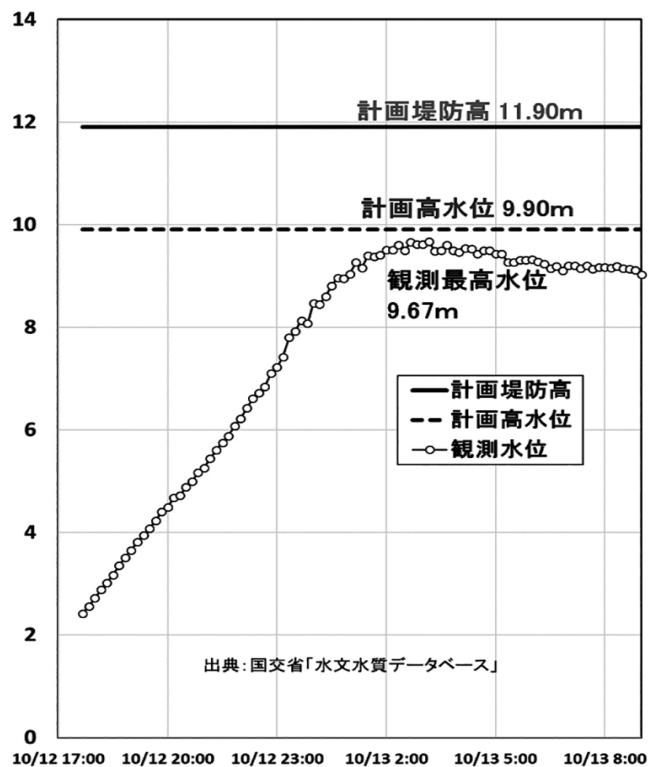
ハッ場ダムは、残念ですが2020年3月31日に完成です。旧態依然のダム偏重の河川行政では、近年頻発している大規模水害に適切に対処出来ないことが、各所で明らかになりました。本会は、ダムではなく、河川の浚渫しゅんせつや、「耐越水堤防」の導入等を通して、災害を防ぎ豊かな自然を守る河川行政への転換を目指して引き続き活動을続けてゆきます。今度の総会でその方向性を確認し、会の名称変更を諮る予定でしたが、3月末の総会は新型コロナウイルスのため延期になりました。総会の開催が決まりましたら改めてご連絡いたしますので、万障繰り合わせてご出席ください。

# 2019年台風19号と 渡良瀬遊水地

嶋津 暉之

昨年10月の台風19号豪雨は東日本に大雨を降らせ、各所で河川が氾濫した。利根川でも水位がかなり上昇した。右図は利根川中流の栗橋地点の水位変化を見たものである。当時の最高水位は9.67m（観測所の基準面からの高さ）まで上がったが、計画高水位より33cm低く、堤防高は計画高水位から約2m上にあるので、まだ十分な余裕があった。

基準面からの高さm 利根川・栗橋地点の水位（2019年10月）





本豪雨で利根川の水位を下げ、氾濫を防いだのは、試験湛水中のハツ場ダムが洪水調節をしたからだという話がネット上で流れたが、上流にあるダムの洪水調節効果は利根川の中下流に行くと、かなり減衰してしまうので、ダムの効果はさほどのものではない。別稿「台風19号でハツ場ダムが利根川を救った」はフェイクニュースをお読みいただきたい。

一方、利根川中下流にある渡良瀬遊水地と菅生・稲戸井・田中調節池は有効に働いたようである。下記の通り、渡良瀬遊水地の貯留量は約1億6千万 $m^3$ 、菅生・稲戸井・田中調節池の貯留量は約9千万 $m^3$ になった。この3つの調節池は茨城県常総市、守谷市、取手市、千葉県我孫子市にある。渡良瀬遊水地と3つの水調節池は利根川の中下流にあるので、その調節効果がそのまま働くことになる。



## 7. 洪水調節施設の効果 洪水貯留状況(利根川)

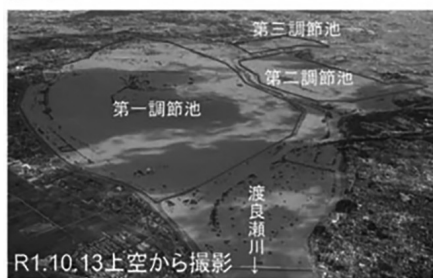
### 渡良瀬遊水地

【平常時】



洪水調節容量  
合計  
約1億7180万 $m^3$

約1億6000万 $m^3$   
貯留



### 菅生調節池、稲戸井調節池、田中調節池

【平常時】



【平常時】



洪水調節容量  
合計  
約1億700万 $m^3$

約9,000万 $m^3$   
貯留



渡良瀬遊水地の貯留量は次ページの表のとおり、過去最大である。1970年以降で今までの最大貯留量は2015年9月の1億731万 $m^3$ であったから、今回の貯留量はそれを5,000万 $m^3$ 以上も上回り、洪水調節容量1億7,180万 $m^3$ に近づいた。

利根川の栗橋地点は渡良瀬川の利根川合流点のすぐ下流にある。栗橋地点の流域面積は8,588 $km^2$ 、渡良瀬川の流域面積は2,621 $km^2$ である

から、渡良瀬川が31%を占めている。

渡良瀬遊水地による洪水調節によって渡良瀬川から利根川への洪水流入を抑えるようになっているので、本豪雨でもし渡良瀬遊水地がなければ、栗橋地点の水位がかなり上昇したと考えられ、その点で、本豪雨で利根川の氾濫を防ぐ役割を果たしたのは、渡良瀬遊水地であったかもしれない。菅生・稲戸井・田中調節池もそれなりの役割を果たしたようである。

今から約100年前に谷中村とその周辺の村を廃村にしてつくられた渡良瀬遊水地であるが、今は利根川の治水のために必要なものになっていると思われる。

### 【補遺】 渡良瀬遊水地について

#### ○ 渡良瀬遊水地の歴史

1907年 谷中村残留民家屋を強制破壊

1918年 渡良瀬川の付け替え工事完了

1945年 赤麻沼が土砂で埋まる。

やがて、沼が点在する自然豊かな湿地へ

1971～2年 第1、第2調節池が完成（第3調節池は1998年）

近年は遊水地の乾燥化が進み、遊水地の生態系が変わってきている。自然豊かな湿地の特徴が少しずつ失われてきている。

#### ○ 洪水調節池の仕組み

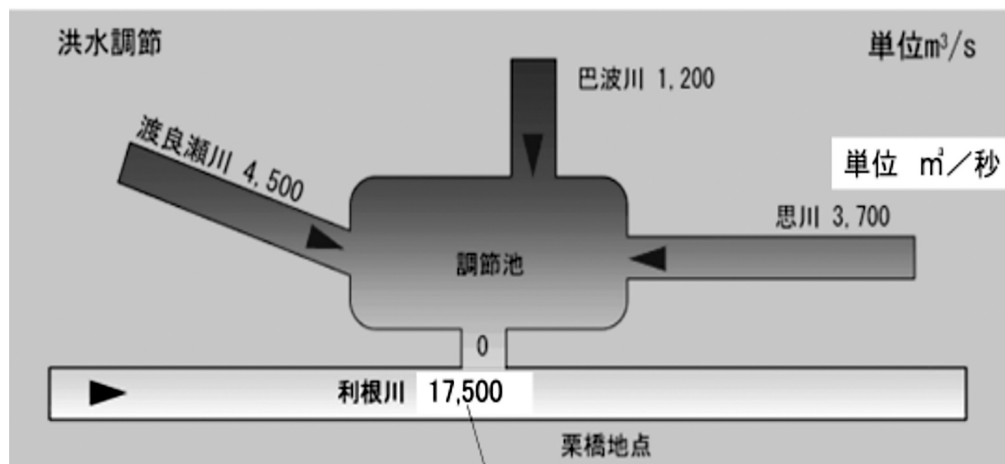
洪水調節池と河川の間には堤防（囲繞堤（囲ぎょう堤））をつくり、大洪水時には囲繞堤より少し低い越流堤（コンクリートで被覆）を超えて洪水が洪水調節池に流入し、洪水調節池内に貯留される。貯留された洪水は洪水終了後、洪水調節池の出口の排水門を開いて、河川に戻す。

1970年以降の渡良瀬遊水地の洪水調節状況  
(洪水調節容量 17,180万<sup>3</sup>m)

年 月	総貯留量(万 <sup>3</sup> m)
1972年9月(台風20号)	240
1982年8月(台風10号)	1,808
1982年9月(台風18号)	3,335
1991年8月(台風12号)	658
1998年8月(前線)	846
1998年9月(台風5号)	6,333
1999年8月(熱低)	301
2001年8月(台風11号)	213
2001年9月(台風15号)	8,118
2002年7月(台風6号)	7,828
2004年10月(台風22号)	169
2007年9月(台風9号)	5,365
2011年9月(台風18号)	4,938
2015年9月(関東・東北豪雨)	10,731
2017年10月(台風21号)	5,500
2019年10月(台風19号)	約16,000

#### 渡良瀬遊水地の役割

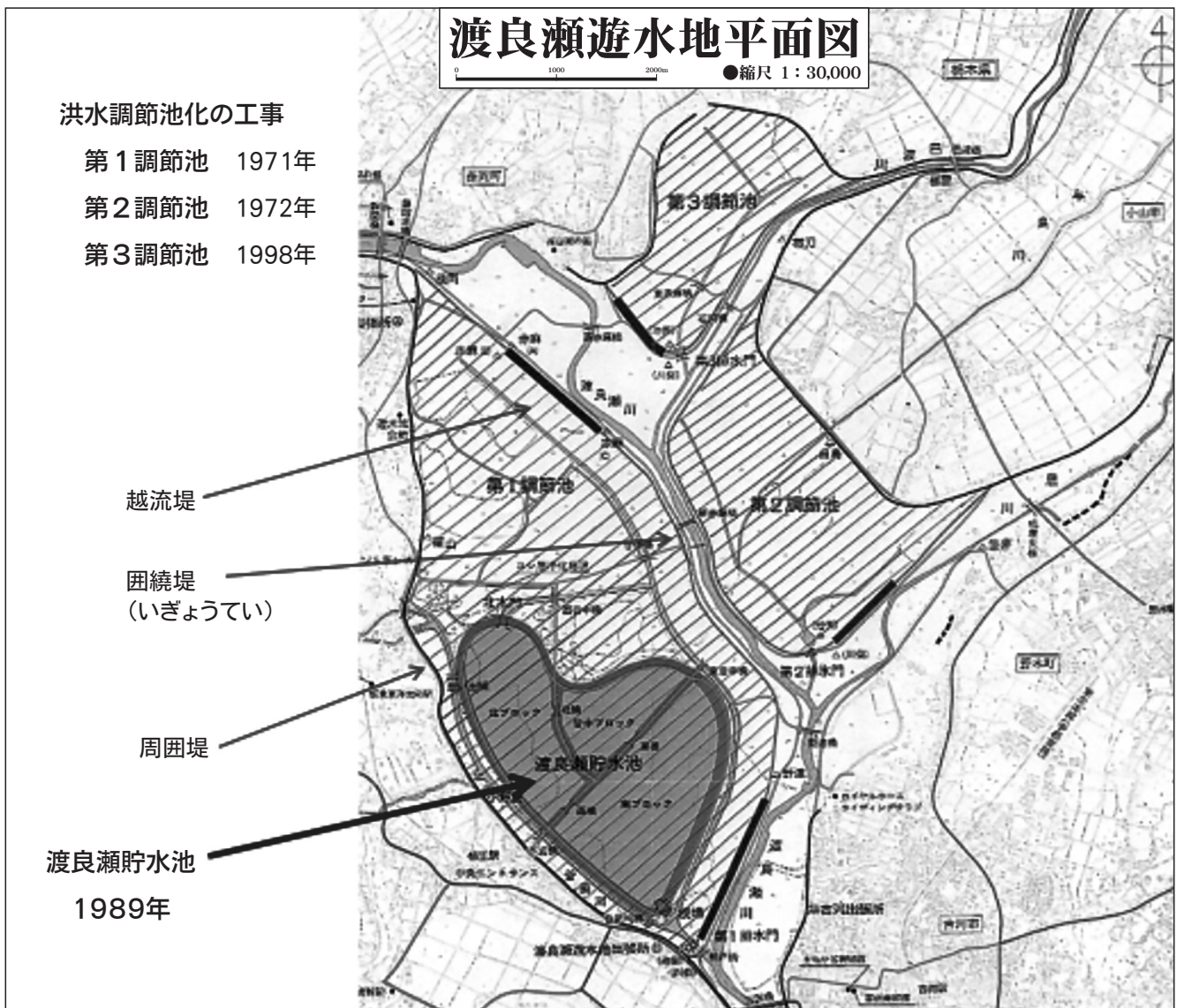
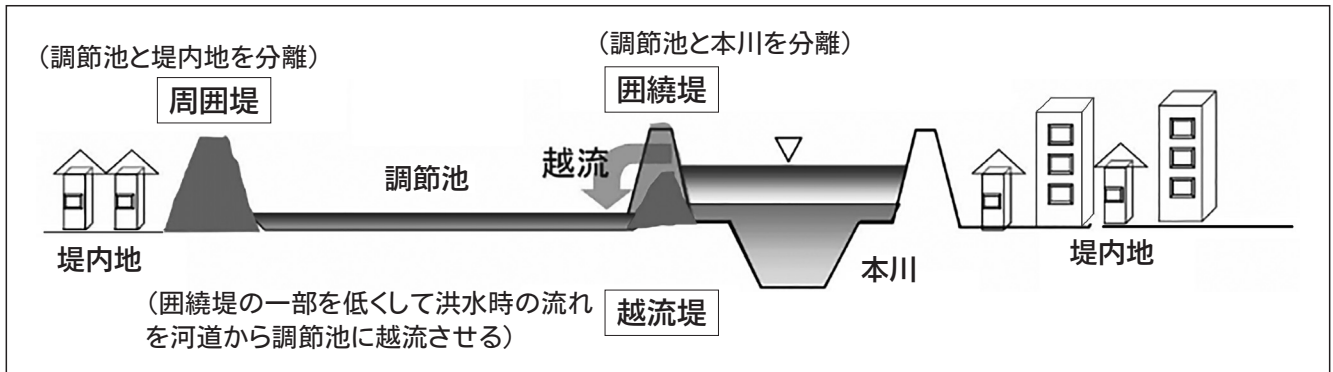
渡良瀬川、思川、巴波川の洪水を調整して利根川の洪水への影響をゼロにする。



17,500<sup>3</sup>m/秒 (利根川水系河川整備基本方針 (2006年))  
14,000<sup>3</sup>m/秒 (利根川・江戸川河川整備計画 (2013年))

第1調節池は渡良瀬川、第2調節池は思川、第3調節池は巴波川の洪水を貯留し、利根川への洪水の流入をゼロにする計画になっている。第1調節池は越流堤が2つある。

	洪水調節容量
第1調節池	11710万 $m^3$
第2調節池	3560万 $m^3$
第3調節池	1910万 $m^3$
計	17180万 $m^3$



洪水調節池化の工事

- 第1調節池 1971年
- 第2調節池 1972年
- 第3調節池 1998年

渡良瀬貯水池  
1989年

# ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 2020年総会と講演会のお知らせ

ハッ場ダムは、度重なる延期の末に2020年3月完成の予定です。

私たちは、このハッ場ダムの建設には、治水・利水・地質・自然破壊等の多くの面で大きな問題があるので、反対する立場で広報活動や住民裁判等、多面的な活動を長く続けてきました。

今回、たとえダムが完成されたとしても、ダム湖周辺の脆弱な地質や代替地の安全性の問題は、到底解決したとは言えない状況です。

試験湛水は、台風19号の大雨により一晩で満水となり、当初の計画通りには実施されませんでした。また、この台風19号の大雨による利根川の洪水をハッ場ダムだけで、防いだかのようなネット情報も配信され、それを多くの人が信じたようです。しかし、国土交通省は、利根川流域にある、他の各ダムの状況についての検証報告を示しませんでした。さらに、もし、ハッ場ダムが通常運用の状態なら、間違いなく、緊急放流をいただろうことも、示されていません。

これらの事を背景にして、嶋津暉之さんに、今回のハッ場ダムについてのニュースが、フェイクニュースであったことを検証していただきます。さらに、ハッ場ダムのこれからの課題についても、お話しして頂きたいと考えています。

一方で、百聞は一見にしかずで、現地の様子を映像でご紹介いたします。

たとえ、ダムが完成されても、私たちは、このハッ場ダムの今後を、注意深く監視していく必要があると考えています。

皆様にもっとハッ場ダムの状況を知って欲しいと考えていますので、ぜひ、講演会と総会にご参加くださるようお願いいたします。

## 「2020年総会」の延期について

3月末に予定しておりました当会の「2020年総会」ですが、予約していましたが会場は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のために使用できなくなってしまいました。当会の本年総会については、状況を見ながら改めて設定したいと思えます。皆様には、決まり次第お葉書でご連絡いたしますので、どうぞよろしくお願い致します。



## ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

事務局：さいたま市桜区大字神田288-3-203（大高方）

☎&fax：048-826-6178

ブログ <http://yambasaitama.blog38.fc2.com>

郵便振替口座：00180-2-334064

